

(3) 本年度の学校評価

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
本年度の重点目標	<p>「あたたかい学校づくり」～感謝し合える関係づくり～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康で安全・安心な学校づくりを進める。 ○一人一人の将来の生活を見据えた教育を推進する。 ○教職員間の協力体制の在り方を点検し、協働してチーム学校として業務にあたることができるよう工夫する。 		
小学部	一人一人の子どもの目指す姿に必要な力を身に付けるための授業の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童の「目指す姿」を家庭と学校とで共通理解する。 ・個々の具体的な指導目標を明確にし、きめ細かな指導計画を立案する。 ・手だての具体化、個別化などをする。実践後に評価を適切に行い、指導の改善をする。 ・関係諸機関との連携に努め、指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の長期目標を踏まえ、その実現に向けた短期目標を策定する。 ・学年会、保護者との懇談、相談等を通じて、子どもの教育的ニーズの把握に努める。 ・関係職員で情報の共有や検討を行い、指導に適切に反映する。 ・学習のねらいや学習状況、形成的評価を保護者に丁寧に説明する。
中学部	生徒一人一人の心と体が十分に動く授業を進め、表現する力及び自立的に生活するために必要な力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実態に基づいた単元を新たに設定するなど、主体性を重視した授業づくりや体験的学習を積極的に行う。 ・教師間の共通理解を図り、明確にされた自立を目指した生活課題に対して、繰り返し丁寧な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画を基に設定する指導目標や指導内容について、その妥当性の向上に努める。 ・教師が「待つ・引き出す」支援の姿勢をもち、手立てを工夫しながら生徒が主体的に課題を乗り越えていくことができるよう専門性を発揮する。
高等部	卒業後の生活及び進路を見すえた上で、社会的、職業的自立に向けて必要となる能力や態度、さらには生きる力の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶及び場面に応じた態度、話し方などのコミュニケーション能力の向上を図る。 ・他の学級や学年との交流を積極的に行うとともに、校内外のさまざまな人との関わりの中で、環境に適応できる力の育成を図る。 ・各種行事や生徒会活動等において、その活動を主体的に取り組む姿勢をもち、企画・実行できるよう支援する。 ・産業現場等における実習、勤労体験実習、校内実習などの体験的、職業的な学習の充実を図る。また、基礎学力の充実、体力の維持や向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路等を見すえ、各生徒の目標、必要となる力や課題などを、本人の意見や保護者の要望を踏まえて策定、把握に努め、適切に連携できるようにする。 ・日々の活動や各種行事において、校内及び校外で人と接する機会を増やし、明るく挨拶などができるように働きかけるとともに、適切なコミュニケーションをとることができるように努める。 ・生徒一人一人の実態に応じた卒業後の進路を念頭に置き、自立に向けた体験的な活動を計画的に設定する。
訪問教育	訪問教育の職員間で共通理解を図ると共に、校内及び他機関とも連携をし、個々の家庭で行っている教育支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の授業実践について検討し合う。より良い実践については、他の児童生徒の授業に取り入れ、授業内容の充実を図る。 ・夏季休業中の出校日に、複数教員で授業を行ったり、参観し合ったりすることで、教師間の共通理解を図り、支援方法を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週行われる訪問教育会議で児童生徒の情報交換をこまめに行い、授業内容についての検討も随時行う。長期休業中を活用して、評価・改善していく。 ・集団学習の内容や校内行事への参加のしかた、そこへ向けての事前学習や事後学習についても検討していく。
総務部	儀式の充実を図る。 PTA活動の効率かつ円滑な運用を図る。 職員が効率よく業務できるように配付物の内容を精選し、環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌内で十分に検討し、各会議等で趣旨や方法の徹底を図る。 ・PTA役員が活動しやすい環境づくりをする。 ・必要な情報を文書化し配付や掲示をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・儀式としての雰囲気や大切にし、他の行事とのメリハリをつける。 ・役員との連携を密にしてPTA活動が充実するようにする。 ・掲示物を整理し必要な情報を伝える。適切な期日に配付や掲示できるようにする。
教務部	授業において指導目標を達成できるように、効果的な手だてや支援方法、教材教具の工夫や開発など指導方法の改善に努めることで、児童生徒の主体的・協働的な学びを推進し、分かりやすい授業が実践できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、「目指す児童生徒像」の目標に沿った系統性のある授業を行う。 ・「目指す児童生徒像」を踏まえた授業実践、授業研修、部研究、学習指導案作成を推進する。 ・個別の指導計画の手だてや配慮事項の見直しを積極的に進めたり、学習の状況やその結果を適切に評価したりする。 ・初任者、5年経験者、10年経験者研修などで行う研究授業を中心に授業研修を行い、実践成果や教材教具の蓄積に努めたり、職員間で共通理解したりすることで、授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部ごとで「目指す児童生徒像」の内容の周知徹底を図る。 ・夏季休業中に「目指す児童生徒像」からの授業改善に結び付く内容の全校研修を行う。 ・授業担当者会や支援会議を有効に活用して、情報交換の機会を保障する。 ・研究授業への参観を推奨したり、授業実践メモを作成したり、教材教具展を開催したりして有効な支援方法の蓄積に努める。
生徒指導部	防災体制の整備と周知を行う。 スクールバスの円滑な運行を行う。 いじめの未然防止と早期発見、適切な事案対処	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの作成と職員への説明を徹底する。 ・避難訓練等を実施し検証する。 ・防災備品の整備・充実を図る。 ・近隣地域との連携を図る。 ・新しいコースの時刻、運行経路が適切であるか調査し、検討及び修正する。 ・いじめや悩みについて調査する生活アンケートを実施し、児童生徒の困りに対し適切な対応ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災体制について周知していく中で、新たな諸問題について適宜、検討を加えていく。 ・避難経路の確保を徹底する。 ・計画的に必要な備品を購入する。 ・運動会・文化祭などの案内を行い、本校の児童生徒に対する理解を深める。 ・保護者のニーズや児童生徒の居住地を把握して、適切な運行コースを検討する。 ・児童生徒の実態にあったアンケートの様式や実施方法、その後の組織的な対応のあり方について整理する。

進路指導部	<p>キャリア教育の推進を図る。</p> <p>進路先との連携を充実し、適切な進路指導を行う。</p> <p>進路指導に関わる情報提供の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業現場等における実習等、体験型の学習を通じて、個々の課題を明確にする。 ・進路先に訪問し卒業生の定着を図ると共に、情報を収集し、生徒の進路選択につなげる。 ・進路だよりや進路の手引きの充実を図るとともに、職員や保護者に対して外部講師の講話を行う等、関係者に対して適切な情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの発達段階における「生きる力」に対する課題を明確にし、進路選択におけるミスマッチを防ぐ。 ・進路先との連絡を密に取り、最新の情報を入手すると共に、関係諸機関との連携を図るように勤める。 ・懇談等を丁寧に行い、児童、生徒、保護者の共通理解を図り、方針を明確にする。
研修部	<ul style="list-style-type: none"> ・現職研修の充実を図る。 ・校内研修における各研修が円滑に進められるように整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由教育の専門性の向上を図る。 ・校内における各研修の資料、手順の整理、マニュアル化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季研修会でよりニーズに合った研修を設定することにより、専門性の向上を図る。 ・校内における各研修を進めるにあたり、曖昧な部分を洗い出し、明確にする。資料、手順の整理を行い、確実に、円滑に各研修が進められるようにする。
図書・視聴覚部	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習・研究活動を向上させ、豊かなこころを育てる図書環境作りをする。 ・視聴覚機器を効果的に利用できるような環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配架の工夫や見出しの整備、季節や行事に合わせた展示や掲示をする。 ・図書館まつり、おはなし会等の企画や日常の啓発活動で本に親しむ機会を提供し、図書の利用を促す。 ・視聴覚機器の管理と整備および利用しやすい環境づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて配架の変更や見出しの更新を行い、配架の目印になる工夫をする。 ・図書館まつり、おはなし会等の内容や実施形態を吟味し、楽しく参加できるような企画をする。 ・可能などころから少しずつ機器の更新を行い、紛失防止の工夫をしつつ視聴覚機器を利用しやすいように整備する。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例を共通理解し、十分に活用して、健康・安全面に対する職員の意識を高め、事故防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故にならなかったヒヤリハット事例、保健室処置事例についてその場で記入できるようにし、具体的な対策（環境整備、支援方法等）を早急に検討する材料とする。 ・保健部で集約して、毎月学部職員に報告し、事例と対策の共有をする。 ・職員間でよく話し合える関係を作り、学年会等を利用して対策を検討・確認する。 ・イラストを利用した危険予知訓練を行い、危険察知能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミス責めるものではなく、事故防止のために活用するものなので、数多くの事例が出るように周知する。ヒヤリハットについての意識の差がでないように根気よく呼び掛けていく。 ・各学年への広がりという意味では、まだ不十分な点が多いのでヒヤリハット事例と改善策を必要に応じて各学年へフィードバックしてより深めていくようにする。
自立活動部	<p>自立活動の授業を改善する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の学習上又は生活上の困難を具体的に、将来の生活を見据えた授業目標や内容を考える研修を行う。 ・自立活動部の職員を中心に学年会等で指導に困っているケースを収集する。 ・分掌会で各学年において指導に困っているケースの情報交換を行う。 ・たくさん体を動かすための実践例や食事に関する実態表、姿勢カードなどを利用したり、掲示板での情報提供や研修案内を行ったりして日々の実践や自立活動に関する情報を視覚的に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的な研修を行い、自立活動部の職員の専門性向上を図る。 ・基礎基本に立ち返り、児童の実態と授業の目標・内容、手立てがにつながるように支援する。
教育情報部	<p>校内ネットワーク及びデータベースの管理を円滑に行う。</p> <p>ICT機器について、授業での活用方法を検討、効果的な活用を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・端末パソコンの設定、ネットワークサーバーの使用法等の専門的な研修を分掌の職員で適宜行う。 ・ICT機器の活用法、特に携帯情報端末の活用法について、分掌内で検討する。研修会への参加や授業への活用を働きかけ、効果的に活用できるように計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サーバーの構築、無線LANの運用、携帯情報端末の活用など、研修に参加した職員の資料を基に、専門的な研修を行い、運用に役立てる。 ・ICT機器の活用法について、研究的な取組を行い、授業実践を行う。無線LANを生かした授業実践や、携帯情報端末の有効な活用を検討し、マニュアルの作成や夏季研修を行い、他の職員に授業での活用を促す。
教育支援部	<p>校内の教育支援体制を整え、円滑な教育活動が行えるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員向け「教育支援部だより」を発行する。 ・障害の特性と関わり方について検討会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者に関わる地域の情報を伝える。また、発達障害に関する講演会の情報を伝え、効果的な教育活動が進められるようにする。 ・巡回相談の事例についての検討会を通して、発達障害児への効果的な支援方法を整理する。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・「あたたかい学校づくり」感謝し合える関係づくりについて ・健康で安心・安全な学校づくりの推進について ・一人一人の将来の生活を見据えた学習指導の充実について ・教職員の多忙化解消について 	